

令和3年度  
事業計画

社会福祉法人 東桜会

## 《社会福祉法人東桜会の理念等》

### 〔法人の目的〕

私たちは、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として事業を行います。

### 〔施設運営理念〕

法人の目的を達成するため、公平で公正な開かれた施設運営を永続し、地域の拠点施設となるように努めるとともに地域福祉の向上に資するよう努めます。

### 〔施設運営方針〕

利用者の多様なニーズに応えられる職員を育成し、利用者が、生きがいを持ち明るく快適な生活ができる住環境の整備に努めます。

### 〔サービス提供理念〕

利用者一人ひとりのニーズと意思を尊重した質の高いサービスを提供し、利用者の生活の質の向上を目指すとともに、利用者の自立を目指し、利用者と共に生き、利用者の回復を目指します。

### 〔サービス提供方針〕

サービスの利用を希望する人たちが、利用者自らが受けられるサービスを選択し決定できる環境を作るとともに、利用者の残存能力を発見し、引き出し、活用ができるような環境を作ること

に努めます。

## 《社会福祉法人東桜会》

### 〔1〕基本方針

1. 法人・施設の中・長期計画の策定に取り掛かる。
2. 法人の理念、施設運営方針等について再確認し、表現方法等を検討する。
3. 働きやすい職場環境を目指し、職員の採用、定着に努める。
4. 地域に存する社会福祉法人として、地域の様々な団体組織・人々と連携して地域に貢献する。

### 〔2〕経営施設及び事業の種類

1. 指定を受けた介護保険事業（介護予防・日常生活支援総合事業を含む）を経営する
  - (1)介護老人福祉施設 麻機園
  - (2)短期入所生活介護事業 麻機園
  - (3)地域密着型通所介護事業 麻機園デイサービスセンター
  - (4)訪問介護事業 麻機園ヘルパーステーション
  - (5)居宅介護支援事業 麻機園ケアプランサービス
2. 社会福祉事業として次の事業を行う
  - (1)軽費老人ホーム ケアハウス桜花
3. 静岡市から委託を受けて次の事業を行う
  - (1)要支援、要介護認定の訪問調査を行う（麻機園ケアプランサービス）
  - (2)静岡市高齢者一時保護施設確保事業を行う（短期入所麻機園）
4. 地域包括支援センターから委託を受けて次の事業を行う
  - (1)介護予防プランの作成

### 〔3〕地域社会に貢献する取組み・地域交流等

麻機園に配置する職員を地域連携担当とし、法人が地域社会に貢献する取組みの業務を担わせる。新型コロナウイルス感染症に充分留意し、施設を開放した地域住民へのサービスや、地域の団体組織・人々と連携して地域に貢献し、福祉の向上を目指す。また、麻機小学校放課後こども教室実行委員会と連携するなどして、地域住民と子どもたちの活動の機会が持てるようにサポートする。

### 〔4〕評議員会、理事会の開催予定

- |             |     |                                       |
|-------------|-----|---------------------------------------|
| ①監事監査       | 5月  | 令和2年度事務事業及び決算の審査                      |
| ②第1回理事会     | 5月  | 令和2年度事業報告、決算及び定時評議員会予定、次期役員・評議員候補者の選定 |
| ③評議員選任解任委員会 | 6月  | 次期評議員の選任                              |
| ③定時評議員会     | 6月  | 令和2年度決算認定、次期役員の選任                     |
| ④第2回理事会     | 6月  | 理事長、副理事長の選定                           |
| ⑤監事中間監査     | 10月 | 令和3年度中間監査                             |
| ⑥第3回理事会     | 10月 | 令和3年度補正予算、事務事業の報告等                    |
| ⑦第1回臨時評議員会  | 10月 | 令和3年度補正予算承認 ※補正予算がある場合                |

- ⑧第4回理事会           12月 事務事業報告等
- ⑨第5回理事会           3月 令和3年度補正予算及び令和4年度事業計画及び予算など
- ⑩第2回臨時評議員会   3月 令和3年度補正予算及び令和4年度事業計画及び予算承認

※予算又は事業計画等に係る議題のあるときには、臨時に理事会、評議員会を開催する。

#### 〔5〕建物・設備の修繕・改修等の予定

麻機園及びケアハウス桜花の建物本体及び付属設備、設備・備品等の経年劣化の著しい箇所について大規模な修繕又は改修等を計画・予定するとともに、職員の業務軽減に資する設備・用具等の導入を検討する。

##### 1. 特別養護老人ホーム麻機園

- ①受電設備改修修繕等
- ②空調設備更新修繕等
- ③電話設備更新
- ④厨房機器・設備更新
- ⑤ダムウエータ改修修繕
- ⑥居室網戸、フェンス等の改修取替
- ⑦業務の効率化・業務負担の軽減化の為、利用者の見守り機器やICTの導入を推進
- ⑧感染症対策に係る設備等の改善・導入

##### 2. ケアハウス桜花

- ①外壁改修工事
- ②電話設備・課金装置、電気使用量等集中監視装置更新
- ③建物周辺地盤沈下への対応
- ④業務の効率化・業務負担の軽減化の為、ICTの導入を推進
- ⑤感染症対策に係る設備等の改善・導入

《特別養護老人ホーム麻機園》

#### 〔1〕基本方針

- 1. 利用者ご家族の要望に的確に応えられるよう、各職種間の連携を密にする。
- 2. 利用者への生活援助者としてふさわしい職員になるよう資質の向上に務める。
- 3. 導入した介護記録システムに習熟し、情報共有等の効率化を図る。
- 4. 介護保険制度の定める条件を遵守して事業を行う。

#### 〔2〕利用者処遇各職の目標

##### 1. 相談員及び介護支援専門員

（目標1）入所者がその人らしく安心して暮らせるような環境創りに努める。

- ・入所者の思いを聴く機会をつくる。

入所者の居室を訪室し個々に話をする機会をつくる。

行事等で入所者が集まる時に、要望等意見交換する機会を設け記録として残す。

入所者個々に話を聴いた時には、記録を残し他職種と情報を共有しカンファレンス等に役立てる。

感染予防対策をして入所者の楽しみである行事等を中止せずに内容を検討して開催できるようにする。

- ・家族の希望、意向を伺う機会をつくる。

家族説明会を開催できない時は代わりとして個別に電話や書面等でサービスの変更やワクチン接種等の情報提供を行う。

電話連絡時や面会時等、家族の希望や意向を聴いた時には、記録を残す。

- ・入所者の様子を家族へ報告する機会を増やす。

電話連絡時に入所者の様子を伝える。

直接面会の制限中は、入所者、家族が安心できるようにワイヤレスインターフォンを使用した窓越しの面会を継続する。

- ・入所者、家族の意向をもとに、その人らしく自立した生活を目指す介護計画を作成する。
- ・入所者が車椅子や靴、補助食器、付加食品等、必要としている物を検討し購入する。

#### (目標2) 職員研修を行う

- ・職員会議、介護職会議を利用し計画的に職員研修を行う。
- ・職員全員が参加できる開催方法とする
- ・職員の知りたいことを研修内容に組み込めるように、職員の意向を聞く機会を設ける。

#### (目標3) 入所率を98%以上に保つ。

- ・優先入所検討委員会を適宜開催する。
- ・入所申込者に「麻機園に入所したい」と思ってもらえるようにする。  
施設見学ができない状況でも園内の明るい雰囲気伝えられるような説明を行う。  
申込者のニーズに合わせ、制度の説明や他サービスの説明を行えるようにする。
- ・他特養相談員、老健相談員、ケアマネジャー等情報交換を行ない連携できるようにする。

#### (目標4) 感染症対策を行う

- ・必要物品の検討、及び購入をする。
- ・消毒方法、防護服の着脱方法等の勉強会を開く。

#### (目標5) 介護マニュアルの検討を行う

- ・現在の内容を見直し必要な随時必要な改定を行う。

## 2. 介護職

### (1階の目標)

- ・入所者、職員同士にも優しさを添え、思いやりや責任を持って仕事をする
- ・入所者に自分でできる事の喜びを感じてもらえるように援助する
- ・手洗いうがいのしやすい環境を整え、感染症を予防する
- ・褥瘡の予防と改善に努める
- ・1階職員同士、申し送りを確実に言い、統一した介護を行う
- ・フロアの清潔を保ち、入所者の過ごしやすい環境を整える

## (2階の目標)

- ・優しい表情・口調・態度で接する
- ・褥瘡の予防と早期改善
- ・担当居室内の掃除・整理整頓
- ・担当居室内の書類管理を行う
- ・離床後の布団の整理整頓、臥床後の衣類・車椅子・靴・膝掛け・カーテンを整える
- ・報連相を徹底させ、統一した介護を行う
- ・読み手が理解できる文章を書く

## (3階の目標)

- ・離床をしたら布団をしっかり畳み、入所者の身だしなみを整える
- ・ゆっくりと話を聴き、優しい口調で話す
- ・褥瘡の予防、早期改善に努める
- ・フロア内を清潔に保ち、手洗いうがいを励行し、感染予防に努める
- ・情報の共有、統一した介護を行う
- ・前年度より転倒事故や入所者の怪我等を一件でも減らすことに努める

## 3. 看護職

“感染症に罹らない・持ち込まないよう注意する。”

“その人らしく、安心して快適な生活が出来るように健康面から援助する。”

### (目標1) 感染予防と入所者の健康を維持するための看護対策

- ・他職種と協力を図り、入所者の体調変化に対応する。
- ・毎日の手洗い、うがい、建物の換気を実行するよう喚起し、感染予防に努め他職員にも啓発する。
- ・入所者の日常のバイタルサインに注意し、感染症罹患や健康状の悪化の兆候を素早く察知し対応するよう看護援助を行なう。

### (目標2) 生活を支える看護

- ・個々に応じた日常生活が営むことができるように、介護職と協力し合いながら看護援助を行なう。
- ・入所者の健康管理の年間計画を立案し実施する。

### (目標3) 生活の延長上にある自然な看取りへの看護

- ・その人らしく穏やかな時間を過ごせる様な環境を作り、施設での生活が少しでも続けられるように看護援助をする。

## 4. 機能訓練指導員

(目標1) 入所者の残存機能の維持・向上を目指し、安全な生活が送れるよう訓練する。

- ・個々の残存機能を把握し、多職種と情報交換を密に行ない、個々に適した目標を設定し機能訓練に努める。
  - ・個々の目標に向け、週に2回以上の個別機能訓練を実施する。
  - ・普段の生活の中で出来ることを増やし、その人らしく自立した日常生活の維持、向上に努める。また生活の場に即した動作の訓練を行なう。
  - ・自立した生活の援助として、安全に移動が出来るよう歩行器を導入したい。
  - ・拘縮予防や褥瘡の発生を防ぐため、適切なポジショニングを行なう。そのためポジショニングクッション、介助グローブ、スライディングシートを導入したい。
  - ・3ヶ月に一度、目標の評価・見直しを行ない入所者又は家族に進捗状況を説明する。
- (目標2) 楽しんで生活してもらるように援助する。
- ・集団機能訓練を1日1回30分間実施し、楽しさ、喜びを伴い、心身の健康や生活の質の向上に努める。
  - ・季節を感じてもらうため、毎月季節のカレンダーの塗り絵を行ない居室に掲示する。また行事にちなんだ壁画作りを行なう。
  - ・行事に積極的に参加しコミュニケーションをとる。また園外に出る機会を増やし日常の生活を楽しんでもらうように援助する。

## 5. 栄養・給食

(目標1) 安全安心で満足感を味わえるような食事を提供する。

- ・旬の食材を取り入れ、季節を感じられる献立や料理を充実させる。
- ・食べる会を毎月実施し、入所者の方々に喜んで頂ける食事を提供する。
- ・嗜好調査を年1回実施し、献立に反映させる。
- ・衛生管理を徹底し、食中毒防止・感染症対策に努める。

(目標2) 栄養管理を徹底する。

- ・個々にあった栄養ケア計画書を作成し、定期的に見直しを行い、低栄養予防・改善を図る。
- ・食事摂取量が低下してきた方には、高カロリー食品を取り入れるなど対応していく。
- ・食事介助やミールラウンドを行い、入所者の状態把握に努める。
- ・他職種と情報交換を密にし、利用者に適した食事サービスに努める。

(目標3) 災害時の給食体制を検討する。

- ・災害対応給食マニュアルを整備する。
- ・備蓄食品の管理・見直しを行い、期限が近い食品は、献立に取り入れる。

## 〔3〕 会議・研修

### 1. 会議の種類

#### (1) 全体

- ①職員会議 ②部門連絡会 ③在宅利用連絡会 ④厚生委員会 ⑤研修委員会
- ⑥広報委員会

#### (2) 麻機園

- ①優先入所検討委員会 ②介護職会議 ③リーダー会議 ⑤パート会議

- ⑥行事担当者会議 ⑦給食会議 ⑧安全委員会 ⑨衛生委員会 ⑩事故防止委員会  
⑪感染症対策委員会 ⑫身体拘束廃止委員会 ⑬褥瘡予防委員会 ⑭食事委員会  
⑮排泄委員会 ⑯入浴委員会 ⑰事故検討委員会 ⑱サービス検討会

2. 在宅部門を含めた全体会議を主催し職員相互の連携を計るとともに、定期的に部門毎、職種毎の会議を開く。
3. 委員会や担当者会議を開催し、利用者処遇の向上や、効率的な介護体制作りに努める。
4. 研修会、研究会、講習会等へWeb による参加の機会を増やし、資質の向上に努めるとともに、出席した職員の報告会を行う。

#### 〔4〕地域交流等

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から地域活動への自粛が続く中、感染予防対策を優先しつつ、時期や内容を検討しながら地域の団体組織・人々と連携し地域貢献活動を行い、福祉の向上を目指します。

- ・平成29年度から実施している施設を開放した「さくらカフェ」は新型コロナウイルス感染予防の為一時中止しているが、野外で行える介護予防体操等を地域に出張して行う。
- ・介護講座等の支援を行い介護予防活動のサポートをする。
- ・地域の催事や訓練へ参加し、地域とのつながりを深める。
- ・在宅高齢者の困り事や介護相談を受け必要に応じ地域資源や公的サービス等に繋げる。
- ・地域で行われている作品展に施設入所者の作品を出展参加する。
- ・ボランティア活動を通し得意なことを活かせるような生きがい支援策を行う。

#### 〔5〕施設・設備

1. 建物及び付属設備等の老朽化に伴う必要な改修、修繕又は取替等を行う。  
受電設備の更新、空調設備の補修、網戸の取替、天井壁等内装の補修他
2. 感染症対策に係る設備の導入等により、利用者処遇向上のため必要な住環境整備を行う。
3. 什器設備の適切な維持管理を行う。
4. 様々なテクノロジーの活用に向けて情報を収集し、業務の効率化、業務負担の軽減を推進する。

#### 〔6〕防災対策

1. 近年多発する土砂災害や水害等に対する備えを充実するために、自然災害に対する職員の防災知識を向上させると共に訓練を行い、避難方法等の検討、必要な備品等の整備を行う。
2. 地震、火災時に備え、職員の防災に対する知識を向上させると共に、定期的に訓練を行い、設備の使用法の修得、避難誘導技術の向上を目指す。
3. 災害時のマニュアルの見直し及び体制を整備する。

#### 〔7〕感染症対策

1. 新型コロナウイルス感染症に関する様々な情報を収集するとともに、感染症対策用品や備品設備の整備を推し進める。
2. 感染症に関連する通知や制度の変更に関する情報の収集に努め、施設事業の経営に反映する。

3. 年間を通じて感染症に対する注意を払い、情報の収集に努めると共に、職員の感染症対策に対する知識を向上させるために研修・実習を行う。

## 《ケアハウス桜花》

### 〔1〕基本方針

安心して楽しく生きがいのある生活が送れるよう支援する。

### 〔2〕運営

(目標1) 安定した入居率の運営を目指す。

- ・年間入居率95%以上を目指し稼働率の向上に努める。
- ・居宅介護支援事業所をはじめ、地域包括支援センター、医療機関等の地域連携室等へ訪問し施設の紹介、空き状況など情報提供と営業活動を行う。
- ・地域連携担当と協働し、町内会、民生委員など地域に施設を知ってもらう機会を設ける。

(目標2) 高齢者の特性に配慮した環境を整備する。

- ・施設出入口の段差解消など必要な施設内外の修繕を行い、安全に暮らせる環境を整える。

(目標3) 相談機能を充実させる。

- ・入居者からの相談に傾聴し、安心な生活が送れるように努める。
- ・地域住民や事業所などが相談しやすい環境を備える。
- ・入居相談に対して「この施設に入居してみたい」との印象がもてるような接客を心がける。

### 〔3〕入居者処遇

(目標1) 健康で可能な限り自立した生活の場づくりをめざす。

- ・年に1回の健康診査、結核健康診断など受診できるよう情報提供し診断結果を把握する。
- ・服薬内容の把握、かかりつけ医との連携、適切な助言をして疾病予防に努める。
- ・必要に応じた介護保険サービスや施設サービスを提案し円滑に利用できるように支援する。
- ・感染症、疾病の早期予防に努める。
- ・入居者の健康、生活上の相談をしやすい環境を作る。
- ・家族面会時など、入居者の近況の生活状況を報告し信頼関係を構築する。

(目標2) 残存機能の維持と余暇活動の援助を行う。

- ・ボランティアや地域住民を受け入れ、地域とのコミュニケーションの機会を作る。
- ・「にじサロン」を継続的に開催し、体操や脳トレなどで機能低下を予防する。  
また必要な物品を購入して工夫のある余暇活動を開催する。
- ・感染症対策を講じた上で、喫茶の開催など毎月1回以上季節感のある行事を企画し入居者間の交流の機会を設ける。
- ・地域で行われる祭りやイベントなどの情報を、入居者に向けて掲示、月刊紙で提供する。

## 〔5〕 会議・研修

1. 在宅部門と連携を計り、入居者に関するサービス担当者会議等に参加する。
2. 職員の資質向上のため外部研修に参加する。
3. 入居者処遇、行事会議、給食等に関して会議を開催する。

(会議の種類) ①桜花会議 ②入居者処遇会議 ③給食会議

## 〔6〕 施設・設備

適切な建物・設備等の保守及び修繕を行い、安全で住みよい環境を整える。

- ・建物の陳腐化を防ぎ安全できれいな外観を保つため、必要な改修、修繕又は取替等を行う。  
外壁補修、インターロッキング等段差改修他
- ・建物付属設備の保守修繕を計画的に行い、入居者の安全快適な生活環境を維持する。
- ・状況により、感染症対策に係る設備・備品等を導入する。

## 〔7〕 防災対策

1. 地震、火災など災害に備え、職員の防災知識、技術の向上をめざす。
2. 入居者向けに土砂災害など風水害の危険を周知する防災教育を行う。
3. 公助、共助をめざし消防、地域、隣接施設等との協力体制を築いていく。
4. 年2回、夜間発生の大規模地震および火災を想定した避難訓練を実施する。
5. 備蓄品（非常用食品、防災用物品など）を購入したい。

## 〔8〕 感染症対策

1. 施設内の消毒、換気など感染症予防を徹底する。
2. 研修等で感染症対策に対する知識を高めるよう努める。
3. 入居者に対して情報提供すると共に、感染症対策に対する知識を向上させる。

## 《在宅サービス》

### 〔1〕 麻機園ショートステイ

(目標1) 年間を通して稼働率75パーセントを目指す

- ・ケアマネジャーへ空床情報を提供することにより稼働率の向上を目指す。

(目標2) よりよいサービスを提供する。

- ・本人、家族の意向、身体状況について他職種との情報を共有することにより、よいサービスが提供できるようにする。
- ・新規利用時は多くの情報を収集し、本人、家族、ケアマネジャーの意向に沿ったサービスが提供できるようにする。
- ・利用前の本人の身体状態の情報を収集し、前回利用の状況にかかわらず適切なサービスが提供できるようにする。
- ・利用中の状態変化時等は、家族及びケアマネジャーに迅速かつ的確に情報の提供を行い、対応

する。

(目標3) 感染症対策

- ・施設内に感染症を持ち込まない、外部に持ち出さないように、利用前の本人及び家族の健康状態をより詳しく収集し、また本人、送迎車両の消毒を行う等感染対策を徹底する。
- ・感染症流行時は家族、ケアマネジャーとも施設の見学、居室での面会が難しい為、写真等を使っての情報提供を行い利用中の生活イメージを持ちやすいようにする。
- ・施設内で感染症が発生した場合は、家族、ケアマネジャー等に情報を提供し、本人、家族、他事業所等が不安なく生活が継続できるようにする。

(目標4) 緊急利用にもできる限り対応する。

- ・介護者の急変等で急にショート利用の要請がある時には、ケアマネジャーと連携して情報収集して受け入れる。

(目標5) ショートの長期利用希望にも可能な限り対応する。

- ・施設入所を希望し、病院退院後自宅に帰るのが難しく、施設入所までに時間がかかる場合等は、利用者家族の希望に応え施設入所までの家族の負担を軽減するように努める。

[2] 麻機園デイサービスセンター

(目標1) 平均利用者数12人をめざす

- ・居宅介護支援事業所を訪問し、新規利用者の紹介を依頼していきます。
- ・パンフレットや写真パネルを活用し、特色をアピールします
- ・介護支援専門員と信頼関係を築けるように、こまめに利用者の様子やサービスの利用状況を電話や書面にて報告します。
- ・バーチャルインデックスや長谷川式等のアセスメント指標を取り入れ、利用者の状態についての理解を深め、利用者一人ひとりに合わせた支援ができるようにしていきます。
- ・リカンベントバイクの記録表を活用するなど、体操やレクリエーションに取り組んだ成果を利用者が実感し、意欲が増すように支援します

(目標2) 感染予防に努める

- ・感染症対策として、送迎時に自宅での利用者の体調に関する情報を収集し、体調不良時の利用の可否を判断する。
- ・職員利用者の手指消毒、備品等の消毒を行うとともに、送迎車両の消毒も行う。

[3] 麻機園ヘルパーステーション

(目標1) 住み慣れた家で安心して生活ができるよう支援する。

- ・利用者の「できること」を伸ばす支援をする。
- ・活動記録票にその日の様子を記入し、利用者家族に様子を伝える。
- ・感染予防の徹底(感染しない・持ち込まない・うつさない)
- ・職員の知識・技術向上の機会を持ち、ニーズに的確に対応できるようにする。

(目標2) 職員の稼働率をあげる。

- ・利用者35人を目標に、毎月の職員稼働率60%を目指す。
- ・居宅介護支援事業所への情報対応報告は的確迅速に行い連携を図る。

- ・地域の方に知ってもらえる場に参加する。

#### 〔4〕 麻機園ケアプランサービス

（目標1）新しい法改正に向けて情報収集し、システムの見直しを行う。

- ・今後A I の導入や書面のデジタル化が進むことが予想されるため、それに対応しうるスキルを身につける。

（目標2）感染予防に努めながら医療や多職種との連携方法を工夫し、インフォーマルサービスも活用しながら利用者の自立支援を図る。

- ・検温、消毒等感染予防を徹底する。
- ・利用者の多様なニーズに対応できるよう自己研摩に努め、幅広い知識をもつ。
- ・利用者および家族の本音を聞き出せるような関係作りに努める。
- ・利用者の思いが達成できるようなサービス計画を作成する。
- ・医療や他職種との連携を密にし、情報を共有する。
- ・インフォーマルサービスの活用をより一層重視し、サービス計画を作成する。